

## 事業所における自己評価結果（児童発達支援）

公表：平成 31年 3月 1日

事業所

縁JOYtime

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		子どもたちが集中して活動できる広さだと思います。日によって人数が多い時は狭いと感じます。部屋のスペースや人員に対して、利用者が多すぎる時があると思います。
	②	職員の配置数は適切である	○		適切であると思います。。常時ではないが配置数が足りないと思うときがあります。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		バリアフリーではなが身辺自立に向け構造化されていると思う。もっと視覚的支援に対する改善できるところがあると思う。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている。	○		風邪などの感染を防ぐためカンファ水を使用し清潔に保たれています。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		目標設定はしっかりできているが、もう少し振り返りの時間が取れるよう今後改善していきたいです。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価表により保護者の意向や伝達不足の事柄が明確になったので今後は改善していきたいです。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページで公開している	○		ホームページで公開しています。今後、会報にも載せていきたいです。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		
	⑨	職員の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		職員が希望する研修が受講できるようにしています。

適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		保護者のニーズにこたえる事に難しさを感じる場合があります。現時点で必要とされる支援は計画書に具体的に記載しています。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		自信を持って一人で出来るが増えるようなプログラムをチームで考えています。
	⑮	活動プログラムが固定化しないように工夫している	○		子ども達が楽しみながら療育できるよう工夫しています。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日おこなわれる支援の内容や役割分担について確認している	○		短い時間ですが、毎朝話し合う時間は持つようにしています。
	⑱	支援開始後には職員間で必ず打合せをし、その日おこなわれた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		職員全員での振り返りや打ち合わせは難しいが、気付いた事は必ず児発管に報告をしています。
	⑲	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎日記録し、誰が見てもわかるようにしてあります。

	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		子供が目標達成できた時や問題行動が見られた時には、保護者を含めたモニタリングをしています。
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		児発管が幼稚園に出向き話し合いの場を持ち情報共有しています。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		来年度初めて小学部に移行する子どもがいます。支援内容等の情報共有は密にしています。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		児童館などに出向くことはあるが活動を共にする機会がないので今後近隣の幼稚園等との交流は考えていきたいです。
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		積極的に参加しています。

	③⑩ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時に子どもの様子を伝え、ご家庭での様子を伺いながら共通理解を持つようになっています。
	③⑪ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○		
保護者への説明等	③⑫ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に行っています。
	③⑬ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		
	③⑭ 定期的に、保護者からの子育て悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		定期的ではないが相談があった際には、しっかりお話させて頂いています。
	③⑮ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		本年度1回保護者会を開催し、必要性を感じたので今後は定期的に行い保護者同士の交流が持てればと思います。
	③⑯ 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		
	③⑰ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月、発行しています。
	③⑱ 個人情報の取扱いに十分注意している	○		
	③⑲ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		

	④⑩ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		事業所に地域の方を招待したことはないが、近隣のお店等に出向くようにしながら地域の方々とコミュニケーションが取れるようにはしています。
非常時等の対応	④⑪ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		契約時に簡単に説明していますが不十分と感じているので、もう一度説明する必要があると考えています。
	④⑫ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っている	○		
	④⑬ 事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		
	④⑭ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		
	④⑮ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		
	④⑯ 虐待を防止するため、職員の研究機会を確保する等、適切な対応をしている	○		定期的に虐待防止のための気付きチェックシートを活動しています。
	④⑰ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		